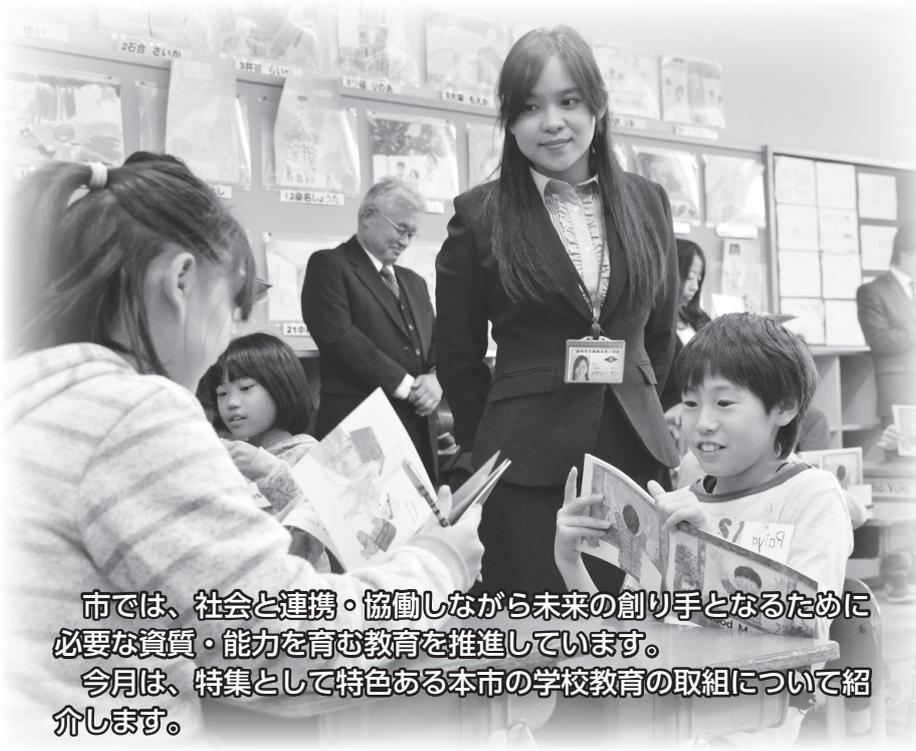


特集

人間力のある次世代を育成
未来へつなぐ
葦崎の教育



市では、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む教育を推進しています。
 今月は、特集として特色ある本市の学校教育の取組について紹介します。

外国語・外国語活動

学習指導要領が改訂され、平成32年度から小学校3・4年生で外国語活動が、5・6年生で外国語科が新設されます。

本市では、平成27年度より3年間、文部科学省の研究指定を受け、3・4年生で外国語活動を週1時間、5・6年生で外国語科の授業を週2時間、行ってきました。

高学年では、ほとんど日本語を使わずに授業が進められるまでになっています。本年度は、中学校や高等学校で英語を指導してきた



先生を小学校へ配属し、その先生方が中心となって、A・L・T（外国語指導助手）や担任とともに授業を行うなど、県内でも最先端の外国語教育を実施しています。



**学力向上
 フォローアップ**



**学習支援員の充実に
 よるきめ細かな指導**

各学校に、特別な配慮が必要な児童生徒の補助をしたり、通常の学級の中で個々の児童生徒へ支援したり、授業の補助をしたりする「学習支援員」を市単独で配置しています。

本年度は2名増員し、17名の支援員がきめ細かな指導を行っています。教職員の多忙化を軽減する取組としても、大きな役割を果たしています。

児童が自ら課題を見つけ学習することにより、学ぶ楽しさやわかる喜びを味わわせ、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図ることを目的に、長期休暇を利用して、学校で補習的な学習を行っています。

昨年度の実施後には「個別に指導してもらったので、勉強がよくわかった。」という声が多く、アンケートの結果では90%以上の児童が「参加してよかった。」と回答しています。

ICT機器を 活用した学習

タブレット端末や電子黒板等のICT機器を活用した授業は、児童生徒の関心を高め、学習の理解を深めます。

文部科学省の研究指定校である穂坂小学校と葦崎北西小学校では、他の学校に先行して、タブレット端末で撮影した動画を大型モニターに投影し、班ごとに話し合いを行ったり、電子教科書・電子黒板を使用して



画面に解答を書き込んでその意見を発表したり、集会や特別活動でプロジェクトエクスターを使用してプレゼンテーションをしたりと、様々な学習や活動を行っています。

本年度はパソコンを使ったウェブ会議システムにより、他の学校とつないだ遠隔授業を行い、小規模校でも多様な意見に触れる機会をより多くつくるなどの取組を計画しています。

この2校の取組を参考に、他の学校でも活用を広げていきます。

自校方式の給食・ 食育活動

給食の献立作成や調理を、給食センターで一括して行う市町村が多い中、本市では自校方式により、安全でおいしく、温かな給食を提供しています。

地産地消を心掛けながら、郷土料理や行事食など、特色のある献立を作成し、地域の食文化や伝統を伝えていきます。

また、作物の収穫体験や、収穫した食材を使った調理実習などの食育活動により、食材を口にするまで



に、多くの人の苦労があることなども学んでいます。



地域人材の活用

邦楽や合唱、水泳、ダンス、ブラスバンド演奏、植物栽培、華道や茶道など、スポーツや日本の伝統文化を体験し、地域の歴史や文化を学ぶ学習とおして、郷土愛を育み、地域との交流を深めています。



小中連携

6年生の児童が進学する中学校へ行き、授業や部活動の様子を見学したり、合唱祭や学園祭を鑑賞したりと、小学校とは違う活動を体験するとともに中学校の雰囲気慣れることで、興味や期待を高めて進学への不安解消を図っています。

また、中学校の先生方が小学校へ出向いて授業をするなど、実際の中学校での授業体験も実施しています。

